

<b>会議名称</b> 平成26年度足立区地域保健福祉推進協議会 第2回「健康あだち21」専門部会	<b>整理番号</b>
	<b>作成年月日</b> 平成26年12月12日
	<b>作成者</b> 足立保健所こころとからだの健康づくり課健康づくり係 大山
<b>開催日時</b> 平成26年12月12日(金) 午後14時00分から16時00分	<b>配付先</b> 健康あだち21専門部会委員及び区側出席者
<b>開催場所</b> 足立区役所8階特別会議室	
<b>議事</b> 1 開会 2 部会長あいさつ 3 報告事項 (1) 食育月間の取組みについて (2) 第19回足立区こころの健康フェスティバルの開催について (3) 26年度糖尿病アクションプランの取組みの中間報告について 保育園での取組みについて 小中学校での取組みについて 職員向けの取組みについて 糖尿病重症化予防訪問の開始について 健康づくりに関わる基礎数字 歯を健康にして糖尿病予防 4 閉会	<b>配付資料</b> 会議次第 資料1 資料2 資料3 資料4 資料5 資料6 資料7 資料8 席次表 糖尿病対策アクションプラン 歯科口腔編アクションプラン
<b>出席者</b> 委員13名、区職員2名、別紙出席者名簿のとおり	
<b>【協議会議事等内容】</b>  <b>&lt;開会&gt;</b> ただ今より、平成26年度足立区地域保健福祉推進協議会「第2回健康あだち21専門部会」を開催させていただきます。 本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。本日司会を務めます。こころとからだの健康づくり課糖尿病対策担当の小林です。どうぞよろしく願いいたします。 本日欠席の委員は、久松委員、浅野委員、藤田委員、川下委員、緑川委員、福岡委員、小菅委員の7名で、定職数を満たしておりますので、正式に部会として成立していることをご報告させていただきます。 議事に入る前に、本日の資料の確認をさせていただきます。資料1～6は皆様の所にお送りした物ですが、本日お忘れになられたかたはいらっしゃいますでしょうか？ 大丈夫でしょうか。では、その他机上配布として、新たに次第のほうを作り直していますので、次第。それから資料7、資料8。それと歯のパンフレットになります。そちらと、座席表をお配りしていますが、お手元にはございますでしょうか？ では始めに、星部会長よりご挨拶をお願いしたいと思います。	
<b>&lt;部会長あいさつ&gt;</b> 皆さんこんにちは。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。活発なご意見をいただいてより良い計画に繋がるようにと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。  (小林係長) ありがとうございました。今年度新任の委員であります、足立区女性団体連合会の乾委員より一言、自己紹介をいただきましたと思います。	

(乾委員)

只今ご紹介いただきました、足立区女性団体連合会の乾でございます。7月1日付けで、会長に就任しましたので、本日が始めてとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもは11の部会に分かれて活動しておりまして、健康部会というのもございます。秋のフェスティバルではですね、体育館の半分を使いまして健康チェックのほうをやっておりまして、保健所の皆様にもご協力をいただいております。この場をお借りして、お礼申し上げます。

また、たんぼぼの会の高村さんにも乳がんのチェックと言いますか、ご相談とかですね、させていただいてお礼申し上げます。よろしくお願いいたします。

(小林係長)

ありがとうございました。では只今より、星部会長に本日の議長をお願いし、議事を進めていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(星部会長)

はい。ありがとうございます。早速ですけど、お手元にある議題に沿って、議事を展開していきたいと思っております。

最初の1番目は、食育月間の取組みについてということと、2番目には足立区こころの健康フェスティバルの開催についてということで、馬場ところとからだの健康づくり課長より、ご説明いたします。

#### <報告事項について>

(馬場課長):資料1・資料2に沿って説明

ではお手元の資料1をご覧ください。まず、食育月間の取組み結果です。

今年の6月、食育月間は新草食系男子宣言～WE LOVE 野菜～と銘打ちまして、若い世代、特に男性に関心を高める啓発を行いました。

これは20代・30代の男性が、野菜の1日の推定摂取量が約180gと非常に少ないんですね。国は350g食べましょうと言っているところに、非常に少ないので若い男性向けに行ったところですよ。

イベントの欄にあります。野菜が美味しいディップ作りですとか、パパと一緒にクッキングですとか、野菜たっぷりガッツリ男子簡単男子ごはんなどを行いました。

こうした参加者ですが、参加されたかたはとても良い企画だったという風に言ってくれておりますが、事務局としては実はかなり宣伝したんですけれども、人を集めるには苦労した企画でございました。

続いて2番、北足立市場の出張野菜市というのを行いました。北足立市場と足立区と東京都は今3者で、野菜が食べやすい地域環境づくりというところで覚書を交わしております。

ですので、北足立市場に区役所に来ていただいて、北足立市場がこうした区民のかたを応援してくれているんだというのを、実感出来るようなイベントをするために出張野菜市をお願いいたしました。

購入出来たかたは293人、列に並んだがもう買えなかったというかたもいらっしゃいました。この日はNPO法人ADMSにもお願いし、簡易血糖検査も行われております。

その他、ベジタベライフ協力店による企画として、35店舗の所で特別メニューや割引メニューをやっていただきました。

あと、主な講演会・講習会は資料にある通りですけれども、色んな保育園や学校でも野菜を食べるところを中心に、食育月間を行いました。

ページを捲っていただきまして、5月の24日と25日は血糖値はかり隊による、HbA1cを北千住の駅にあります、ルミネの屋上で行いました。

ルミネのキレイプロジェクトというところに、区も一緒に乗ってやったものですが、血糖値を測ったかたが295名、その内ですね足立区民で40歳以下のかたにHbA1cの測定を行いました。HbA1cは88名に行いまして、その内14名が、5.6以上のかたでした。

こういった若い男性をターゲットにした事業は、今後も増やして行きたいと思っておりますが、ただ行政と若い人は実はあまり接点がないものですから、そういった苦労はありますが今後も工夫をしてい

きたというふうに考えております。

続きまして資料2、第19回足立区こころの健康フェスティバルの開催について、ご案内させていただきます。

27年3月7日の土曜日、午前11時から区役所の庁舎ホールなどにおいて、19回目のこころの健康フェスティバルを実施したいと思います。後援・協賛は資料にある通りです。

主な催し物としては、庁舎ホールで六月中学の吹奏楽演奏があったり、式典があった後、午後です。ね、講演会で「人にはいろいろな顔があっていい ~自分を見失わない生き方~」ということで、芥川賞作家の平野啓一郎先生に来ていただいて、お話しを頂く予定です。

この作家さんは意外と、30代・40代の若いかに人気があります。自分を追い詰めない考え方をしようというところで定評がありますので、是非皆さんも聞きに来ていただけたらと思います。

その他区民口ビーで、民生自動委員の先生方によるバザーなども行います。周知方法は資料の通りで、今後あだち広報等でご案内していく予定です。以上です。

#### <質疑応答>

(星部会長)

はい。ありがとうございました。この食育月間の取組みということと、第19回のフェスティバルの概要についてご説明していただきましたけれども、これについてご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。

議題が終わった後でも、また戻って質問することは可能なので、今質問がないようでしたら次の議題に移ってよろしいですか？

はい。それでは、次の議題に移りたいと思います。3番目は、26年度糖尿病アクションプランの取組みの中間報告ということで、小河原指導調整係長よろしくをお願いします。

#### (小河原指導調整係長)：資料3に沿って説明

はい。それでは保育園での取組みについて、報告させていただきます。まず。子ども・子育て施設課と子ども・子育て支援課によりまして、4つの項目を挙げて取組みを行ってまいりました。

まず1番の野菜の日の実施ですが、これは区立園での実施になりますが毎月野菜を中心とした、食べやすいように工夫した、野菜の日というところで色々な野菜を採り入れて、給食の献立を作成し園児に食べていただいています。

その中でですね、保護者のかたにも簡単に作れる野菜レシピを配布したり、また保護者のかたにも食べる機会を増やしていただくということで、保護者の給食体験などといったものを採り入れて行っているということで、野菜を中心としたものに興味を持っていただくということを行いました。

それから学務課さんとの連携の仲で、Aメールで給食レシピを配信してると思うんですが、偶数月に関しては保育園の栄養士のほうが、担当をさせていただいております。

それから2番目の野菜に親しむ体験ということで、小さい頃から野菜に親しもうということで、各園でも近隣の農家から収穫ということで、自分の園で畑がある園とかプランターで栽培するとか、そういったもので収穫体験を行ってまいりました。

その中で昨年の農業体験は、19園が実施しております。これは、あくまでも区立園での情報になりますが、19園が農業体験を行いました。

私立保育園に関しましては、まだ情報が入りませんが、各園お芋ほりに行ったり近くの区民農園で畑を使って野菜の栽培をしたりとか、そういった報告は上がって来ております。

それからその収穫したものを、野菜の皮むきですとかそれからそれを使って、自分達できんぴらごぼうを作ったり、ゴーヤのチャンプルを作ったりとか、そういったものも食育の取組みとして行っているところです。

それから3番目の保護者の給食体験ですが、こちらのほうは昨年からは保護者のかたにも是非、保育園の給食を知っていただく、野菜に関心を持っていただきたいということで、こちらのほうも体験給食を行っております。

12月現在で、122名となっておりますが、今現在で147名のかたが区立園での給食を体験していただいているということです。

私立保育園は保護者会等を利用して、保護者の方に給食を食べていただいている機会も設けているということで、報告が上がっております。

それから4番目の1口目は野菜からなんですけど、これに関しましては昨年から子ども達を通して、まず最初に1口目は野菜から食べましょうという声かけをし、子ども達の間では浸透して来ているという報告は上がっています。

それで保護者のかたにアンケートを取った結果なのですが、区立園のみの43園で取りましたが「お子さんは野菜を自分から食べようとしていますか？」という設問に対して、70%のかたが食べようとしていますとの回答がありまして、それから「お子さんは食べられる野菜は増えていますか？」ということに対しては、85%のかたが「はい」という回答をお示しされております。

そして資料にも書いてありますけれども、保護者のかたが1口目は野菜からは子どもには浸透しているんだけど、保護者のかたは「1口目は野菜からを知っていますか？」ということに対しては、36%のかたということで数値的には低いので、これからも家庭への啓発は必要だなと感じているところです。以上です。

#### <質疑応答>

(星部会長)

はい。ありがとうございました。今の取組みの概要について、ご説明していただきましたけれども、何かご意見、ご質問いかがでしょうか？

(藤原委員)

藤原です。副部会長をさせていただいています。

ちょっと確認なんですけれども、幼稚園での取組みについてはなにかしらの連携があるのかということ、足立の子ども何割ぐらいのかたが保育園に行っているのかというのを教えていただけますか？

(小河原指導調整係長)

はい。保育園に通っているお子さん何ですが今現在、区立園・私立園合わせますと、9,000名ぐらいのかたが民間保育園に入っているんですね。幼稚園の数は把握出来ていないんですが、区立も私立も野菜の取組みに関しては、啓発は今しているところです。

幼稚園の数が、もっと多いと思うのですがすいません。そこまで把握が出来ていません。

(藤原委員)

幼稚園では具体的にどんな取組みをしているのですか？

(小河原指導調整係長)

幼稚園さんは、お弁当の所とそれから給食の所があるかと思うのですが、その辺に関しましては情報の提供は行っているのですが、実際に幼稚園さんのほうを回っておりませんので、情報的には幼稚園系のほうに聞いてみないと申し訳ありませんけれども、ここで正確な回答が出来ません。申し訳ございません。

(藤原委員)

ありがとうございました。

(星部会長)

家族の面で考えると、連携しやすいのかなと思います。他にご意見はございますでしょうか？

(原委員)

歯科医師会の原です。野菜の日っていうのは、特定の日か何か決まっているのですか？

(小河原指導調整係長)

はい。毎月1回だけ、野菜の日を設けています。日にちとしては、食育の日に合わせて行ったり献立を作る時に、工夫して19日が食育の日なのでそこに合わせたりはしていますが、カレンダーの都合上そこが土曜日、日曜日になりますとずらしたりしております。

毎月、区立園に関しては栄養士が献立を作りまして、その部分に今月はこの日が野菜の日ですよと保護者のかたに周知をしているところです。

そして区立園で作った献立表を、私立保育園のほうにも参考までに送らせていただいておりますので、それを使っている園もありますし、それから自分の園で参考にして独自に私立保育園さんで作っている場合もありますので、それぞれ私立保育園さんに対応していただいているところです。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。その他にご意見、ご質問いかかですか？よろしいですか？そして次の議題に進めさせていただきたいと思います。

次の議題は小中学校での取組みということで、望月学務課長からご説明をお願いいたします。

**(望月学務課長)：資料4に沿って説明**

はい。資料4の小中学校での取組みでございます。足立区は皆さんもご存知の通り、おいしい給食を推進しているところでございます。

その中で、小中学校でも野菜の日給食というのをですね、今年の2月から毎月1回実施しているところでございます。

内容としてはですね、旬の野菜を材料とした給食献立を学校栄養士がグループで検討してですね、献立を各学校へ小中学校については実施日決まっています。各学校で実施日を決めてですね、実施しているところでございます。

そして、学校の掲示板や昼の放送等でですね、野菜摂取の必要等をですね、色々啓発をしてそれをまたですね、家庭にも野菜の日のレシピということでお知らせして、家庭でもですね簡単に野菜の献立を作れるような、そういう取組みを実施しているところでございます。この取組みは今後も継続していきたいと考えております。

そして、野菜の日のレシピをAメールで奇数月に現在配信しているところでございます。

2番の小児生活習慣病予防健診についてですが、学校ではですね中学2年生と前年度、いわゆる中学2年生の健診の時に、要経過観察だった者を対象にですね、毎年、小児生活習慣病予防健診というのを実施しているところでございます。

内容は、貧血とコレステロール、そして血圧の測定でございます。そして、検査の中で要経過観察だったかたを対象にですね、事後講演会というのを実施しております。

それが今年の12月20日足立区の医師会の会場をお借りして、実施する予定でございます。

実施内容は、講演会「小児生活習慣病予防～肥満・高コレステロール血症について～」ということで、東京女子医科大学東医療センター小児科の杉原先生に後援をしていただくことになっております。

そして、その他にですね、医師と栄養士による個別相談を実施することになっております。以上でございます。

**<質疑応答>**

(星部会長)

はい。ありがとうございました。小中学校での取組みということで、ご説明していただきました。これについてご意見、ご質問いかがでしょうか？

(石澤委員)

中学2年で実施して、この要経過観察の人っていうのは、実際どのぐらいの割合の人なんですか？

(望月課長)

去年はですね、いわゆる正常と管理不要の子どもがですね75.38%でございました。ということは、これを引くと約24%が要経過観察や、治療が必要という判定でございます。

(石澤委員)

ありがとうございました。

(星部会長)

野菜とか、食育とかも極めて重要だと思うんですけども、それを支えるのは口腔ケア、口だと思  
います。

皆さんのお手元に、足立区の糖尿病のアクションプラン歯科口腔保険対策編があると思いますが、  
こちらのほうご覧になっていただいてもよろしいですか。

例えば4ページを見ていただきたいのですが、基本的に足立区の3歳児の虫歯は、特別区から見  
ると少し多めです。

だけど、それを小学校1年から分けて見ると、小学校の頃は足立区の子どもの多いけども、中学校  
になるとよその区と平均になってきたと、そういう傾向が分かります。

次のページもご覧いただきたいんですけども、ずっと足立区は小学校1年生から6年生まで虫歯  
の割合ってというのが、23区の中では1番虫歯が多いという状況だったのが、小学校5年・6年にな  
ると22番目にアップしてしまっていて、これは素晴らしいことだと思います。

3歳児とか小学校では確実に、特別区の平均に比べて足立区の子供達は虫歯があるんだけども、  
中学校1・2・3年生になるとその比率は23区に並んでしまうところまで来ているので、見事な効  
果が出ていると私は思います。

こういった野菜だけの話に絞らないで、やっぱり口腔ケアに繋げてトータルでより素敵な子ども達  
が、食も大事ですけどそれを支える、口腔ケア。

そして、出来たら食べながら会話をして、楽しい1日の語り合いをするとかそういう形で、トータ  
ルで繋げてくるところこういう口腔ケアの経年変化を見るように成果が出ているので、これからこういった  
成果が広がると思うんですけども、今話題的には野菜中心になってはいるけども、それを口腔ケアと  
繋げてその辺が結果、生活習慣病の予防に繋がるかなと思いましたが、説明させていただきました。

このことについても、委員の皆様から何かご意見、ご質問ございますか？

(小河原指導調整係長)

すみません。先程、幼稚園のお子さんの数字というところで、申し上げられなかったのですが、話  
が戻ってしまうのですが今申し上げてもよろしいですか？

(星部会長)

はい。どうぞ。

(小河原指導調整係長)

数字で見る足立の中で、参考までに申し上げますと幼稚園に通っているお子さんの数が、大体8割  
で保育園のお子さん達が2割という形で、正確な数字が申し上げられないのですが、そういった回答  
でよろしいでしょうか？申し訳ございません。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。その他はよろしいでしょうか？それでは次の議題に進めさせてい  
ただきたいと思えます。

次は、健康応援部会における職員向け取組みについてということで、中村人事課長からご説明よろ  
しくをお願いします。

**(中村人事課長)：資料5に沿って説明**

はい。人事課長の中村でございます。お世話になっております。私からは、職員向けの取組みとい  
たしまして、報告をさせていただきます。

人事課で実施しております事業といたしまして、2つ大きなものがございます。まず、実施済みの  
事業のほうでございますけれども、1つ目といたしまして糖尿病予防の情報提供ということで取組ん  
でおります。

内容としましては、職員向けのOAシステムがありまして、そこの掲示板に糖尿病対策の記事を掲  
載しております。現在記事といたしましては、様々な講座の情報も含めまして13件ほど、記事を掲  
載しております。

また、1の(2)でございますが、職員の個別指導ということで毎年行っております定期健康診断の中で、糖尿病の指導が必要と思われる職員かつ、ご自身で何らかの病院にかかっていないかたを対象といたしまして、個別指導を行っております。

26年度の健診結果に基づきまして、要精密者34人、要治療者16人につきまして個別指導でございますが、申し訳ございません。これは訂正でございますが、要治療者16人につきましては12月15日、来週から個別指導に入るということで、まだ16人については指導が出来ていないということでございます。つきましては資料の訂正をしていただければと思います。

また、2のほうも実施予定事業といたしまして、糖尿病の理解、予防法の習得といったものを目的としました講演会を、27年の1月・2月の2回実施する予定でございます。

内容については今詰めているところでございますけれども、より多くの方々、特に先程個別指導が必要になられたような方々のために、聞いていただくためにですね同様の内容で2回実施するという形で、昨年もそのような方法を取りましたけれども、実施する予定で考えております。人事課からは以上でございます。

#### <質疑応答>

(星部会長)

はい。ありがとうございました。職員の皆さんもこういう取組みをしていただければ、結果的に区民の健康に繋がるはずですから、そういう面での職員向けの取組みも大事だと思いますけれども、この件について何かご意見ご質問ございますか？

(藤原委員)

この対象になっている人は何人なんですか？

(中村人事課長)

職員数は、常勤が約3,500人。それから、非常勤職員も健康診断を受けておりまして、約1,500人おります。合計で、約5,000人という風に考えていただければと思います。

実際に要精密・要治療に引っかかっている職員は、350人程いるんですけれども、何らかの医療機関にかかっておりますので、そういった医療機関にかかっていないかたが、ここにいる50名ということになります。

(藤原委員)

ありがとうございました。

(星部会長)

その他はよろしいでしょうか？

あの、まだ研究中ですけれども、トイレとかお風呂とか寒いですがけれどもこの寒いトイレとお風呂で、年間亡くなるのは20,000人です。

決して侮れない数字だと思うんですけれども、そのお風呂とトイレが寒くて死んでしまう現実にたいして、今年から国土交通省が340億円という予算を確保して、家を暖熱化する。

つまり、寒くない家を作るのに1戸あたり100万円の補助をしています。今年は340億円。来年はどうなるか分かりませんが、大したことはないように思えますけど、とても大きなプロジェクトだと私は思っていて、その改修する前と改修した後の温度だけじゃなくて、血圧だとか血糖値だとか全て調べることになっていまして、実はそのプロジェクトは10年前に行われていて、一万戸くらいからの調査ですけれども、実は寒い家から暖かい家に引っ越すと、見事に血圧も血糖値も改善することが分かっています、こういうプログラムの中にこういった、ただ単にですね、運動しろだとか、食事でカロリーをどうこうではなくて、体を冷やさないプロジェクトもそこに入れてはもらえませんかと思います。

これはまだ結論までは行かないけれども、風邪を引くデメリットもあるんですけれども、風邪引くメリットもあって、抗体が作られる訳なんですけれども、一番人をダメにするのは、僕は心が風邪引いている人がダメになると個人的には思っていて、心が風邪引いている人はやはり食欲も無くなって活動量も減って、基礎体温が0.1度くらい下がるらしくてその0.1度下がっただけで体のエネルギー

ギーを出す部分の活動が極めてゆっくりになってしまい、要するに糖分が燃えないということも大体分かってきていますので、是非体を冷やさないための住宅のコンセプトとか、それから心が風邪を引かないようにするための良い関係性だとか、そういうのをトータルでね、ピンポイントの部分だけに対応するのではなくて、何で血糖値が下がらないのかというところに住居環境とか、職場環境とか人間関係なんかも踏まえてこのプログラムを展開していただくことが、非常に効果的な対応になるのかなと思います。

今日は医師会の先生もいらっしゃいますので、何かコメントいただけませんか？

(奥田委員)

星先生の全くおっしゃる通りだと思んですけども、今日は主に子どもさんの話も多いかと思うんですけど、私も内科・小児科をやっておりますが、部屋を暖かくして下さいというのは良く言うんですけども。

例えば、重ね着とか肌着を着ない、今の若い人は肌着を着ません。シャツを着ない。今の高校生ぐらいを見ていただくと分かりますけど、胸を開けてもうシャツも着ない、女の子もそうですね。

まずそういうスタイルをしている人が多くて、昔から言われている肌着を着て、例えば熱が出るのは襟元ですから、タートルネックのような襟元を暖かくするとちょっとした工夫をするだけで、高い洋服を買う必要もありませんし、小さい子の鼻水も減れば中耳炎も減ると。

色んなものに繋がってくるのがあって、小児科って生活指導がかなり多い部分を占めますので、大人の人はご本人に言えばいいんですけども、そういう指導を私達、小児科何かで非常に良くやっています。

あとちょっと気になるのは、ここで言っているいいか分からないですけども、保育園とか託児所で薄着、薄着とやたら薄着をさせるんですけども、我々小児科を診ている人間からすると鼻水が出ますと必ず中耳炎になりますので、小さい子って耳が痛いって言いません。

今5歳児健診なんて話もありますが、小学校に入って耳鼻科の先生に健診してもらおうと、実は慢性中耳炎で耳の聞こえが悪いので喋りが下手だと。

今、言葉の聞こえない教室というのも足立区ございますけれども、そういう風になっている子を良く見かけますね。

たくさん着せるのではなくて、肌着の洋服の着せ方と今星先生がおっしゃったような住環境だとか、家の子が布団に入らないんですと良くお母さんがおっしゃるんですけど、一晩お布団に入らない小さい子何ていませんよ。それはどっか具合が悪いんです。おそらく。

ただ、ちゃんと着せる物を上手に子ども達が寝てから親御さんに面倒見ていただければ、かなり病気何か減ると思うんですね。例えばですね。そういうのに繋がってくるのかなという風に思いました。以上です。

(星部会長)

はい。貴重な現場からのお話しありがとうございました。その他全体を通して、何かございますか？時間がありませんでしたら、また戻ってご意見ご質問可能ですので、何かありましたらお話し下さい。

では次の議題として、糖尿病重症化予防訪問の開始ということで、これは馬場課長さんのほうからご説明お願いしたいと思います。

**(馬場課長)：資料6に沿って説明**

平成26年度の特定健診受信者を対象に家庭訪問を始めましたので、その報告をさせていただきます。資料6の資料です。

この対象になるかたは、40～59歳の国民健康保険の特定健診を今年度受けたかたです。それで、HbA1cの値が7%以上でその後未治療、治療は始まっていないかたを対象に行います。多分1年間で、200人ぐらい出てくるのではないかという見込みで訪問を始めております。

訪問は26年9月から始めておりますが、これは9月分のかたというのは、5月に特定健診を受けてその後未治療になっているかたを、9月に始めております。

ですので、6月のかたは10月に、7月のかたは11月にと月毎に名簿をもらって、訪問をしてまいります。

訪問をした後の評価・フォローですけれども、訪問後3ヶ月でレセプト情報などをいただきなが



ら、受診に繋がったかどうかというところを見ていきます。また、その後受診に繋がっていないかたには再度受診干渉をしていく予定です。

訪問1年後はですね、レセプト情報から受診の有無を確認すると、あと健診結果などで HbA1c の値が維持されているか、あるいは改善されているかそういったところを見ていく予定です。

こうしたことから、課題を明確にして今後関係機関と連携しながら、患者さん達が重症化しない取組みを続けていきたいという風に考えております。以上です。

#### <質疑応答>

(星部会長)

はい。ありがとうございました。糖尿病の重症化予防ということで、訪問事業についてのご説明をいただきましたけども、これについてはいかがでしょうか？

(藤原委員)

訪問を、拒否するとか訪問出来ないかたがいると思うんですけども、それは大体何割ぐらいですかね？

(馬場課長)

はい。4割ぐらいは確かいらっしゃったかと思います。去年やっているのですが、4割のかたに対して、訪問表を置いてきたり不在メモを残したりして、何とか連絡をつけているところですが全く連絡がつかないというかたが3～4割いたと記憶しています。

(藤原委員)

多分訪問する前に、訪問出来ない人と出来た人に、そんなに違いがあるのかなのかっていうのを把握しておく必要があるので、まずそれを調べておいたほうがいいのではないかなと思います。

後は、こういう家庭訪問もって日本人大好きなんですけど、実際何やっているかってあんまり、プログラムの報告がないんですよ。

要するに、家庭訪問ってせっかく凄くコストをかけてやるので、何を具体的にやっているのかっていうパッケージをきちんと出すべきだと思うんですよ。

1回の訪問で人が変わるってことはありえないので、それを踏まえた上でのプログラムを作っていくと、多分結果として受診していませんでしたとか HbA1c 変わってないですね、じゃあもう訪問の意味ないですねってなってしまう可能性が高いので、せっかくやるのでやるからには徹底的にやるし、訪問出来なかった人に比べたらやっぱり出来た人のほうがより良くなっていることを示していけたらいいんじゃないかなと思いました。

別に受診しなくても、お医者さんに行っても、いきなり血糖値下げる薬とかインシュリンってことじゃない可能性もあるので、保健師さんが行って出来ることも結構あると思うんですよ。

つまり生活習慣についてのアドバイスとか、モニタリングってことは出来ると思うので、そういったことも含めて今後もっと具体的なパッケージ化を検討したほうがいいんじゃないかなと、ちょっと思いました。

(星部会長)

とても大きな課題で、こんな事例もいっぱいあるかもしれないんですが、そこらいっぱい学べることも多いと思いますし、ここは基本的に主治医の先生ともいい関係がしっかり取れていることが、良い意味で良い成果を与える可能性もあるので、是非主治医の先生とも連携を上手に取りながら進めていかなくとも良いのかなとも思いましたね。

その他、糖尿病重症化予防のための家庭訪問についていかがでしょうか？よろしいですか？

あと、僕急ぎすぎてしまったかもしれないのですが、今日の議題が全部終わってしまったのですがこれではまずいので、皆さんから色々なご意見のほうをいただきたいと思います。

(馬場課長)

すいません部会長。追加で皆さんに説明させていただきたい資料がありますので、資料7と8について報告させていただいてもよろしいでしょうか？

(星部会長)

はい。お願いします。

**(馬場課長)：資料7に沿って説明**

今回、具体的な数字ですとか取組みを示すことが出来なかったのが、急遽ですが資料7と8を用意させていただきました。

資料7はですね、最近いくつかの数字をまとめていましたら、大分足立区も改善出来ているところが見つかりましたので、それを集めてみました。

1つは健康づくり推進員です。健康づくり推進員は、平成7年から足立区では制度化して始めた事業ですけれども、現在294名まで増えています。

また個別の推進員さんだけではなくてですね、皆さん住区センターの運営委員の中の健康推進部とだいがなっていたきまして、青少年部ですとか婦人部と並んで、健康づくり活動を地域で活躍していただいているところです。

2つ目は健康関連の自主グループです。足立区の歴史をひも解いてみますと、昭和63年頃からです、自主グループの育成を始めています。平成2年度は、28グループだったんですが25年度末では約38まで増えています。

あと、野菜を食べる取組みとしてベジタライフ協力店というのを、去年の丁度今ぐらいから始めた訳ですが、これが大分伸びておりまして12月3日現在、517店舗まで増えてきました。

足立区にはこうした野菜を売ったり食べたりする飲食店や、スーパーが全部で6,000店舗ありまして、私どもは600店。まず、10分の1である600店を目指しているところですが、今517まで伸びてきているところです。

今後、ただ単純になっていただくだけではなくて、その質の改善・向上というところも心がけていきたいと思えます。

次に平均寿命です。これはアクションプランの中にも出ていますが、男性は平成2年に74・8歳で23区の中で最下位だった訳ですが、22年では78・5歳まで延びまして、19位まで上昇して最下位を脱出している状況です。

自殺者数は、平成10年はですね193人で、これが足立区で1番自殺が多いところだったんですが、20年からこころといのちの支援事業など取組みながら、24年は148人という数字になりました。ピークの時よりも、23%、約4分の1減ってきております。

あと、皆さん今ビューティフルウィンドウズで各町会などで取組んでいただいていると思えます。ビューティフルパートナーなどになって、色んな防犯活動をやっていると思うのですが、数字を見ると平成13年は16,843件で、とても多くて23区で1だった訳ですが、25年には8,241件まで下がり、約半分まで下がりまして、都内4位、ワースト3から脱却しました。

更にですね、26年の足立区世論調査の速報値が今出て参りまして、速報値を見ますと26年の世論調査で区に誇りを持っている。足立区に誇りを持っているかたが結構少なかった訳ですけれども、それが49・4、22年から約倍ぐらいに増えてきたというところです。

ですので、今まで自主グループを色々作っていただいている活躍していただいて、皆さんが地域の中で繋がり作っていただいていた訳ですけれども、こうやって大分年月がたって見ると、かなり数字は良くなってきているというのがわかりましたので、1つ報告です。

続いて資料8をご覧ください。

これは9月にですね、こども家庭課と一緒にリリースした物になりますが、あだちベジタライフそうだ野菜を食べように続く第2弾として、子どもの歯の健康、特に0～15歳に切れ目のない歯科健診を実施するってところをリリースさせていただきました。

これは先程、星部会長から紹介がありました糖尿病対策アクションプラン歯科口腔保健対策編をまとめてありましたら、足立区は本当に23区の中でも虫歯が多くて更にですね、治していないお子さんが多いということもわかりました。

それでこれをどうやって改善していくかと考えていた時にですね、3歳児健診までは母子保健法で歯の健診を全員受けていますし、今度就学すると学校保健安全法でやはりちゃんと健診は受けられる訳なんですけれども、その間の4・5・6歳は中々施設によって、歯科健診の実施状況がまちまちで、しっかり取組んでいる施設もあれば、実はやっていない施設あるという状況でしたので、まずはここを足立区では統一の歯科健診を行って、特に5歳・6歳は虫歯が増える時期ですので、ここでの虫歯

を減らして虫歯を少なくしていく。

そして、虫歯が多いお子さんですとやはりちゃんと噛めないですし、今肥満やメタボになるかたは飲み込むように食べていて、噛んでいないかたが多いので、そういった早食いを防止したりする意味も含めて、この歯の健康に焦点を当てて、補正予算を組んで秋からスタートしているんですけども、認証保育園のような施設でもベビーホテルのような施設でも、ちゃんと歯の健診が受けられる仕組みを作ったところです。

もう1つ、それに関連して今日子どもの歯は抜けるから虫歯になっても大丈夫と思っていませんか？というパンフレットもこれに合わせて、作っています。

特にこの、6歳臼歯を虫歯にしないようにしていこうということで、保健所の職員が苦労してこういったパンフレットを作りまして、今回歯科口腔保健編が出来てこの健診をスタートさせて、更に今これを全園に配ってですね、虫歯予防に取組もうとしているところです。以上になります。

#### <質疑応答>

(星部会長)

はい。ありがとうございました。今までこういった部会での会議っていうのは、こういうことを計画しています、こういうことをやりましたっていう、そういう報告が中心だったと思うんですけども、今回そういう活動していたらどんな成果があったのか、つまりどういう効果が出てきたのかっていうのを非常に分かりやすくこの資料7でまとめていただいて、ご説明のごとく、例えば平均寿命が延びることは極めて素晴らしいことだと思いますし、同時にみんなの努力が背景にありますけども、こういった自殺も大幅に減って、かつ犯罪も確かに今まで23区でワースト1が足立だったんですけども、下から4番目になりました。

まだまだ改善の余地はあるとして、大幅に改善されたのは本当に素晴らしい成果だと思いますし、職員の皆さんもさることながら、職員の皆さんの日頃の成果が素晴らしい効果として表れていることが今日確認出来て、とても私は個人的に嬉しく思いました。

是非ともこれについても、ご意見ご質問をお願いしたいと思いますけども。

(村上委員)

この平成22年の平均寿命について、今26年でしょ。何でこんな前の古いやつを出すんですかね？

(星部会長)

それについてが僕がお答えします。これが最新のデータです。

(村上委員)

そうなんですか。

(星部会長)

はい。基本的に5年ごとに出ていまして、勿論間も無く新しいのが出ますけども、その新しいのが出るのも後、1~2年後ぐらいだと思います。

(村上委員)

というのは平均寿命が、男子の場合は80歳を超えましたよね。そうすると、大分ギャップがありすぎるかなと。

(星部会長)

簡便に出す方法と緻密に出す方法の2つの種類がありまして、簡便なもののデータが、出ていますけど、それは簡便が故に中々こういう公の場で使いにくい特性も勿論あります。

簡易生命表っていうんですけど、それを使って出すのは最新なんですけど、これは完全生命表と呼ばれるデータでこの平成22年度のデータっていうのは基本的に最新のデータという風にご理解下さい。

(村上委員)

ではもう1つすいません。

(星部会長)

はい。どうぞ。

(村上委員)

足立区で犯罪の件数、これが減っているというのは自転車の窃盗が減ったかなという風に聞いておりますけども、やはりそういう考えですか？

犯罪のほとんどが足立区の場合だと、自転車の窃盗犯が圧倒的に多いという訳なんですか？

(馬場課長)

勿論ポリウムとしましては、自転車どろぼうが一番多かったので、そこに重点を当てて対策を講じて減らしておりますが、実は防犯カメラもたくさん付けていますし、ビューティフルパートナーさんの清掃や防犯活動、あと青色パトロールの実施などもありまして、全体的に数字が下がっているという風に聞いております。

(村上委員)

はい。わかりました。

(星部会長)

その他いかがでしょうか？参加していただいているかたから、一言もらいたいと思いますので、吉田さんから一言ずつお願いしたいと思います。

(吉田委員)

やはり健康のために、食が大切ですけどね。まず1口目が野菜からっていうこの言葉、素晴らしいなって思いましたね。

こういったことから色んな健康が、特に歯のほうも全てに関して、通用するんじゃないかとそんな気がしました。

(石澤委員)

すいません。私はスポーツ推進員ですので、どうしてもスポーツという立場から見ちゃうんですけども、野菜を食べようよという今、あちこちで色々な形でスポーツ推進委員会のほうにもそういった形で講演とかしていただいてまして、私達もそういったことの重要性はわかっているつもりですが、運動と食事との両方の部分がやっぱり必要なと思っておりますが、その運動に関しては何か具体的な、こういう運動をしたらこういう経過が表れたとか、そういうような数字みたいなのが、もしありましたら是非紹介していただきたいなと思います。

(星部会長)

事務局何かありますか？

(馬場課長)

足立区独自のエビデンスというところでは、ちょっと今すぐ浮かばないんですけども、やはり運動をしっかりといただいているかたのほう健康状態は良いという風に聞いております。

それで確かに今丁度、スポーツ推進委員の所にもお邪魔させていただいて、スポーツしているかたが動いて健康になると同時に、野菜も食べて元気になってるよ、というのも皆さんに伝えていただくことが、この両方の運動を広げることになりますので、運動もしつつ野菜も食べてるというところを是非良いモデルになって広げていただきたいと思います。これからもよろしく願いいたします。

(石澤委員)

ありがとうございました。

(望月課長)

すいません。小中学校のほうで申し上げましたけど、皆さんご存知のとおり、学力のほうで今かなり力を入れているんですけども、それと同時に体力のほうにも力を入れています。

美味しい給食との兼ね合いもあると思うんですけども、24年と25年の体力テストの数値がかなり向上しているところでございます。

25年度で申し上げますと、小学校ですと全96項目中、45項目が都の平均値を上回っています。そして96項目中、44項目が3年間で区の最高値を記録しております。

中学校でもですね、全54項目中、37項目で3年間で区の最高値を記録しているところで、小中学校ともに体力のほうでもそれなりの成果が出ているところでございます。以上でございます。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。では次の委員さんお願いいたします。

(乾委員)

ベジタベライフ協力店というのが、増えているようですけれども、具体的にどの様な協力をしていただいているんですか？

このマークは良く目にします。

(星部会長)

事務局お願いします。

(馬場課長)

はい。大きく分けて3種類です。1つは野菜などの販売、小売りで販売していただくかた、2つ目が野菜たっぷりメニューの提供、これはレストランなどで1回120g以上の、野菜メニューを使った定食とか、お料理があるところ、あるいはお弁当屋さんでそういった野菜たっぷりのお弁当を販売しているなど、これが野菜たっぷりの取組みです。3つ目がベジファースト、食前に野菜のミニサラダを出していただいて、野菜から食べるを実践出来るの3種類となっております。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。続きまして、村上委員何かございますか？

(村上委員)

今ですね、中学生の給食メニューのコンクールとかやっているじゃないですか。そのメニューはですね、どっかで試して食べられるような所はあるんですか？

(望月課長)

すいません。残念ながらメニューコンクールというのは、年1回やっています、それで区長賞を取った作品につきましては、小中学校で今週、全校で美味しい給食ウィークというのをやって、子ども達は食べられたんですけど、残念ながら保護者の方には食べられる場所はないんです。

ですが、皆さんもご存知だと思いますが14階のピガールで、週代わりで給食のメニューを30食ですけど提供していますので、ご試食していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

(村上委員)

聞いたのは、コンクールで優勝した 中学校なんですよ。私、地元なもんですから、どこに行ったらそういうの食べられるのかなと気になったのでお伺いしたところです。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。続きまして小久保委員、何かございますか？

(小久保委員)

私は、特につもものはないんですけども。古いキャッチフレーズになってしまったと思うんですが、早寝早起き朝ごはんですね、これは、励行していますね。

後は、食べる時ですけども、30品目以上を食べています。それから噛むのも30回以上ということで歯医者さんはかせないですね。

健康管理では、やはり早起きしたらただ起きるだけじゃなくて、ウォーキングを約1時間ぐらいと体操ですね。

ただやるのではなく、基本的な体操をして体を動かさないと、あちこちの筋肉が丈夫になりませんから、やはり体操をやるんだったらば、基本的な内容を良く理解した上でやられると良いんじゃないかなと思います。以上です。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。次の委員さんお願いします。

(三浦委員)

同じく障害連の三浦です。先程の平均寿命の件なんですけれども、23区内で最下位を脱却したと、19位に上昇したっていうので大変喜んでおります。

年寄りには、特に高齢者は野菜を食べましょうということで、自分の身を心配するせいか野菜をまず、最初に食べるように私自身もなりました。

すぐ忘れてしまうこともあるんですけど、そういう訳で高齢者は比較的に野菜を食べているということも、長生きの秘訣になって来ているのかなと今お聞きしております。

けれども、小さいお子さんとかがどうしても、野菜をあんまり食べないんじゃないかなと。自分の孫を見ていても、好き嫌いが多いいんですよね。

これをやっぱり、一所懸命努力している内には効果があがっていくんじゃないかという風に感じております。ありがとうございました。

(斉藤委員)

同じく障害者団体連合会の斉藤と申します。ろう者協会の中では、最低でも歯を20本残そうという風に皆で、頑張っているところですが、まず野菜から食べましょうというところもPRをしています。

今少しずつ始めたところです。まだ効果があったかどうかは分かりませんが、少しずつ始めているところです。

(星部会長)

ありがとうございました。続いて歯科医師会の原委員お願いします。

(原委員)

2つほどあるのですが、実は歯科医師会でも障害者の施設の方々を対象に歯科健診をやっています。それは今まで個人の先生と、施設の方と数箇所しかやってなかったんですけどね。

やはり歯科医師会の組織として、関わって行くべきじゃないかということで、今その辺のところを施設長の数名の方と話しております。ゆくゆくは行政の手助けを受けながら障害者施設の対象の方々の口腔ケアが、出来れば良いのかなという風に思っております。

もう一つは、今非常に生活習慣に関わることがスポーツも含めてですね、色々話題になったと思うんですけども、歯科のほうの立場としては口腔の形で言わせていただくと、要するにベジタライフっていうのは非常にキャッチコピーとしては良い表現だと思います。

要するに、野菜を食べるっていうのはしっかり噛まないといけませんから、丸呑みに出来ない訳ですから、そういう意味では噛むっていうことで、噛むことは今30回噛んで一口って言っていますけど、昔はそれどころじゃなくてその10倍ぐらいしっかり噛んでいたんですね。

それで8番の、オヤシラズの歯もしっかり顎が成長するから生えた訳で、今は歯科で言わせると8番が非常に問題があって、顎が成長しないからですね、だからそういう意味では昔からしっかり噛んで食べると、唾液も出るし唾液によって殺菌作用もあるし、それから色々な血流も脳の血流も上がる

しということで、これは子どもにとっても高齢者にとっても非常に有効なことなんです。

だから、カロリーだけの問題じゃなくて食べるっていう行為ですね。これが非常に大切だということで、しかもそれを家庭の団欒の中でやるっていうことです。

そうすると、家庭内の色々な意見交換等も出来る訳ですし、そういう意味では生活習慣が非常に変わってきた結果、糖尿病とかそういうことが話題になっているので、基本は昔の日本人の食生活のスタイルに戻って行けば、色々な意味でも解決出来るのかなという風に考えているんですけども。

それを対策として、今日も資料に出ていますが乳幼児から小学校と、そういう意味では非常に保育園を中心に幼稚園も含めて、歯科のほうでも今衛生部と協力しあって、4歳・5歳を中心にその辺から小学校までが非常に虫歯になりやすいという時期なので、その辺からの取組みをやっていくというのは非常に良いことだと思っておりますので、衛生部のベジタベライフに歯科医師会としても協力してやっていきたいなという風に思っております。以上です。

(星部会長)

はい。ありがとうございます。では続きまして奥田先生お願いします。

(奥田委員)

奥田でございます。ここ数年、区の取組みを今日も拝見して、データを見て徐々にですけど効果が出てきて本当に、良いことだなという風に感じております。

ちょっと気になることあって、資料6に保健師の話がありましたが、保健師さんがどのくらい効果が上がったかを評価なりデータなりが何かあったほうが良ろしいという話がありましたけれども、こういう指導を具体的にやっているのかというのを知りたいと思います。

それが気になっていることです。というのも、私毎年、保健師さんに頼まれて地元の住区センターで、10年近くあちこちで講演会をやっておりますが、地元のお年寄りがやっぱり多いでするので難しい話ではいけないですし、私が最初に依頼されたのは色々なデータって今たくさんあると思うんですね。

そういうグラフとかもパワーポイントを使って出すんですけども、通り一遍等な話じゃなくて具体的に今日どうしたらいいんですかっていう分かりやすい話にしようということで、1年間ずっと資料を毎日毎日集めながら、その中からパワーポイントを作るとそこまで苦労して実はやっています。

合計4箇所の住区センターで今までやったことがあるんですが、その中では保健師さんがいつも来ていただいているんですけど、保健師さんがどういう指導をどこでやっているのかって、実は僕たちあんまり良く知らないものですからもうちょっと教えてほしいなと思います。

例えば、骨を丈夫にするならヨーグルトを食べたらいいと、そういう話を聞きました。ヨーグルトを食べるとコレステロールが上がるので、脳梗塞増えたり心筋梗塞が増えたりする訳ですけども。

つい最近、乳製品に関してネガティブな新聞報道出ていますよね。実は牛乳をたくさん摂るのは良くないというデータが海外で出始めて、つい最近新聞を騒がせています。

色々なデータがあると思います。その中で、どういう風にされているのかなと伺いたいの一点。それから、一番最初に馬場課長が言われた中で血糖はかり隊というのがあったのですが、血糖はかり隊はどのような方がやられるのか伺いたいと思いました。

医師会では衛生部とコラボしてやらせていただいたりして、こういう色々な所でHbA1cなり血糖なりを測るといのは、どんどんこれから広がっていただくと患者さんというか。未受診の方に良い影響を与えるかなと思います。以上です。

(星部会長)

はい。ありがとうございました。事務局何かありますか？

(馬場課長)

はい。では馬場からお答えさせていただきます。

まず、今回の重症化予防訪問の中でどんな指導をしているのかというところでは、実はあまり細かくは指導は出来ていないというか、まずはどうして受診に行かないのかという理由を聞いたり、後は出来るだけかかりつけ医に行きましょうと、そして三点目に簡単に話せる時は是非、まずは野菜から食べましょうというところを、お話しをしているところです。

その他の骨粗しょう症のかたとか、高血圧のかたとかそういったかたの部分につきましては、もし良かったら先生、地区担当保健師を通じてそういったペーパーもお届けしたいと思いますので、また見ていただければと思いますが、この重症化予防ではあまり深くは指導出来ていないというところがあります。

もう一つは今、この重症化予防の保健指導に合わせて栄養士の方の指導も始めていまして、重症化予防訪問で医師会の先生方の病院に繋がったかで、栄養指導が必要なかたはまた保健所の栄養士を使っていたかという仕組みを作っておりまして、そこに繋がったかたには細かく栄養指導のほうを、評価をしながらやりたいという風に思っております。

もう一つ、血糖値はかり隊ですけれども、これは巡回診療の届出を出して、医師と区の保健師あるいは雇い上げの看護師でチームを構成して、各イベントなどに現在出ているところです。

また最近ではADMSのかたがチームを組んで、出てくださいる場合もありますのでADMSの時もやはり見せておりますと、看護師さんを雇っていただいて測っていただいている状況です。

(星部会長)

ありがとうございました。奥田先生よろしいですか？

(奥田委員)

はい。

(星部会長)

では続きまして、橋本委員お願いいたします。

(橋本委員)

私は住区センターの役員をやっております。あまりにも、年寄りの一人住まいの人が多いため食事の一人寂しく食べている人がたくさんいるんです。

それで区の方針で、48ある住区センターで今年の4月から月2回程度、皆で楽しく晩御飯でも食べるかということで、住区で団欒、17時～19時までやっています。

私のセンターは去年から始めたんですけども、今年で2年目に入りましたけども、大体50～60人がその都度集まって、皆でゲームやったり歌ったり食べる時には必ず、いただきます野菜からという言葉の言葉を皆で言っています。

結構、大勢のかたに参加していただいて、楽しくやっています。

(星部会長)

ありがとうございました。何かご意見あるかたはお願いします。

(藤原委員)

いいですか？

(星部会長)

お願いします。

(藤原委員)

こないだ、ハーバード大学のイチローカワチ先生という先生がいるんですけども、その先生と話している時にやはり一人で食べているのは、良くないというのを実証した研究の話のカワチ先生にしたんですけども、カワチ先生も大分アメリカナイズされていまして、ご飯は一人じゃ食べちゃダメなの？みたいな感じなんですね。

それで皆でご飯を食べるとより楽しく美味しくて良いみたいな感覚って、意外と日本人だけってことがこないだ初めて分かりまして、是非ですね、素晴らしい取組みをされているので、それで何かより美味しく食べて、健康状態もメンタルも良いみたいなことを何か示せるといいんじゃないかなと思いました。

他にやってない住区と、申し訳ないんですけど比べさせていただいてやったら、良いのかなと思



ました。

(星部会長)

私も思いましたが、今橋本さんがおっしゃったように、そういう晩御飯を皆で集まっていたかきまずで、まずは野菜からという取組みが小さな蓄積のように見えるけど、大きく広がって寿命が延びたり犯罪が減ったり様々な良い効果が出ていると私は思いますので、そういうのを是非これからも広げていただければと思いました。

では、最後になりましたが、高村委員をお願いします。

(高村委員)

高村でございます。私は健康づくりに関わる基礎数字のところ、健康づくり推進員は何人とかこういう風に書かれているのが懐かしいというか、自分が推進員であった時、それから健康関連の自主グループで私が今参加している所は、本当に自主グループとして乳がんの体験者の会の始まりの中で、啓発活動をさせていただいております。

それで、そういう中での健康づくりをしていく時に星先生が、足立区に講演に来て下った時に本当に先生から色々なことを教えていただいたかなと思い、懐かしく思っているところです。

それでこの野菜を食べましょうということでも、自分のたんぼぼの会という会の中でも、野菜を食べるところでは、栄養士さんのお世話になったり保健師さんのお世話になったりしながら、皆でそういうことに今励んでいるのかなと思っております。

家の中でも、主人と二人暮らしですけれども、その中で野菜が今日はちょっと少な目かなと思うと、いつもの量がほしいとか一番にというのは私より身についていて、他の物をテーブルに運んでしまうと、野菜はどうしたのって言われるくらい家の中では野菜が大事ということで、身についているのかなと思います。

それから街を歩いていると、小学校の掲示板を見ると給食の内容の案内が出ている学校もあつたりして、今本当に区の職員さん方が色々活動されて、食品について関心をすごく広められて来ているのかなという風を感じております。

そしてこの健康あだち21というところでは、本当に健康で長生きというところを、本当に生活の中で生かしていければいいかなという風にいつも考えております。以上です。

(星部会長)

ありがとうございました。

足立区は、少なくとも他の区から見て大きな特徴点は、自主的な区民のグループ活動が非常に早くから地区的に展開されてきました。

そのグループの一つが高村さんでいらっしゃると思いますが、そういうのが広がりを見せて、こういった健康寿命が伸びたり、犯罪が減ったり区の誇りに思える取り組みが増えたことは、本当に素晴らしい成果だと私は思っています。

時間はかかったかもしれませんが、良い方向に今動いているなというのが、今日の私の印象です。それは皆様方の地域の日々の、蓄積の成果がこういう形で出ているのかなと思います。

とても良いご意見等が出ましたけども、全体を通して何かございますか？

(藤原委員)

ベジタベライフで、そこに一転集中してやっていくということで良いんですけども、やっぱりどうしても他の健康決定因子というか、さっき運動の話もされていましたが、あと今日たばこの話が一瞬も出ていなくて、やっぱりそれも頭に置きつつ、野菜を食べるということで健康に意識を持ちます。

健康に意識を持つから、運動もしたり喫煙もしませんというような、フレームワークを少なくともこの人達は持っていたほうがいいんじゃないかなと思うんですね。

一応それもモニタリングしてて、本当にやっていないけど運動をしている子が増えたり、やってないけどたばこ吸ってない子が減ってきたりとか、という風になってくると、よりいいんじゃないかなという風に思いました。

(星部会長)

はい。さすが副委員長らしく、大事なポイントを指摘していただいたと思いますけど、私も同感でして、足立区に誇りを持っているのも大事ですけど、自分自身に誇りを持っている子どもはたばこを吸いません。吸わない傾向にあります。

やっぱり区を愛していたり、自分自身を愛していたり、そういう子は勿論たばこは吸いませんし、勿論食事にも気を配りますし、トータルでものを見ていくのも凄く大事だと私は思います。

是非、こういった健康の中に喫煙のことも、勿論運動のことも、そして自分が豊かに生きることも含めてトータルで考えていくことが大事だと思います。

その他、全体を通して皆様ご意見、ご質問いかがですか？

(村上委員)

すいません。

(星部会長)

はい。どうぞ。

(村上委員)

資料7のところ、平均寿命となっていますけども、健康寿命については説明出来ないんですか？

(星部会長)

馬場課長説明をお願いします。

(馬場課長)

健康寿命のご案内が遅れてしまって、申し訳ございませんでした。本日のこの薄緑色の冊子、アクションプランですけれども、こちらの3ページの上のほうを見ていただきますと、表1の上が平均寿命、下が健康寿命という風になっています。

すいません。ここの数字が少しずれてしまいましたが、健康寿命は下のほうの76.36歳と81.04歳のほうをご覧いただければと思います。

(星部会長)

はい。じゃあ今ご覧になっていただいている、アクションプランの3ページの表1をご覧になっていただくと、全国の平均寿命も出ていますし、それから東京都の平均寿命も出ていますし、そして足立区の平均寿命、男女に分けた数字が出ています。その下のほうが一応、健康寿命ということで数字が出ています。

(馬場課長)

表1の数字のほうが確かな数字ですので、資料7に78.5歳と出ておりますが、すいません。こちらを見ていただいて、77.98歳のほうを男性の平均寿命として見ていただきたいと思います。

(星部会長)

わかりました。ありがとうございました。

こういった資料も丁寧に皆で、見ながら特に経年変化とか東京都とか全国値の比較も経年にしながらですね、見ていけば頑張った成果がどれぐらい上がったかなというのが見えてくると思います。

他の自治体も頑張っているんですけども、足立区の頑張りが多分それを上回るというのも効果的であって、いくつかの数字が少しずつ改善して、順位も23番目から上がってきているという傾向は今後とも加速させるように、皆で力を注いでいくと良いのかなという風に思いました。

その他よろしいでしょうか？この部会は一応、衛生部長、区民部長が入っておりますので、何か一言コメントのほうをお願いします。

(大高衛生部長)

衛生部長です。先程、副部長からもお話があったように健康あだち21の専門部会ですから、当然糖尿病だけではなくて、たばこもあればがんもあるということでございます。

とりたてて精鋭的に取り組んでいるのが、糖尿病対策という形のご理解を是非いただきたいということ、実は来年からがんの対策をもう少ししっかり進めることによって、健康寿命を伸ばす為の下になっているベースラインの平均寿命を伸ばしたいなという風に思っています。

23区の中でも、がんで亡くなるかたの数がやはり足立区非常によろしくない状況になっていますので、そこにメスを次は入れていきたいなという風に思っております。

それから、これはちょっと余談になりますけれども、役所の施行体制が縦割りです。国民健康のジェネリックが区民部にあります。ですが、ジェネリックの健診の事務手続をやっているのは、実は保健予防課で衛生部、保健所のほうにあります。

同じように介護予防の関係についても、これは介護保険課が介護予防事業をやっているのですが、本来的な介護予防の0次予防の関係ですとか、そういったことというのはトータルで今申し上げたような、3部が協同してやる必要があると思っております。ここは是非、28ないし、29に向けて出来れば、どこかに一本化をしてトータルで行政サービスないし行政計画を展開出来るような形で小さな頃から、しっかりした健康づくり、それから壮年期になった時には介護予防を通じて出来るだけ健康で、健やかに地域で過ごせるような区民の皆様方になっていただくような、そういう取り組みをしたいなという風に思っているのですが、やはりすぐにはその結果が出ないのが残念ながら、道路を作ったり橋を作ったりしている訳ではありませんので、10年ぐらいかけてですね、成果を区民の皆様方にお返しをしたいなという風に思っております。

多少、10年かけている間に状況も変わってくるかと思えますけれども、ご協力お願い申し上げたいと思います。

特に実際、医療現場で色々アドバイスを頂く歯科の先生方であったりとか、医師会の先生方であったりとか、ナイフでは触れない中でも是非協力いただかなくちゃならないところがありますので、本来であれば色々無理難題を申し上げた分だけ、お返しをしなくてはならないという風に思っているのですが、そのところも大目に見ていただくとありがたいなという風に思っております。以上です。

(星部会長)

大高衛生部長ありがとうございました。それでは全体を通してよろしいですか？少し予定より早めに終わりそうですけど、中身としては十分ディスカッション出来たかなと思います。

それではマイクを事務局にお返しします。よろしく申し上げます。

<閉会>

(小林係長)

今日は本当に、活発なご意見をいただきありがとうございました。今日はこれで終わりにしたいと思います。

次回は、来年の6月頃をまた予定しておりますので、よろしく申し上げます。今日は長い間ありがとうございました。

以上